

市議会議員の懇談会

■11月17日



平成 25 年度以降 2 回目の懇談会は先ず紙芝居上演で開会しました。議員・協議会員共に 1/3 は新メンバーで活発な意見交換ができました。「区政への女性の参画」については、今後のアンケートへの取り組みに貴重な意見を頂きました。「男女共同参画」の認識度はまだ地域では低く、特に女性の意識向上への教育が大切であり、市政・議会へも関心を持ってほしいとの要望も出されました。女性議員、自立した女性誕生などの話題にも及び時間オーバーで会を閉じました。

男女共同参画市民協議会の仲間入りをして

この度社会活動を通じて男女共同参画市民協議会へ入会しました。男女共同参画社会の実現は、少子高齢化や人口減少社会の到来、家族や地域社会の変化などに伴い男女の隔たりが無い平等な社会を創ることだと思えます。例えば、区役員など女性の参加が少ないのが現状です。自らの意思によりあらゆる分野の活動に参画する機会や横断的な取組体制の整備が必要です。男女が個性と能力を発揮でき、実践する機会をもっと身近なものへと推進できるよう学びたいです。

(横山 真)

《2015年 輝いた人》 城南保育園保護者会長 飯田 智紀さん



■保護者会長になった経過は?

妻のところに話が来たのですが「自分がやってもいいよ。」と言いました。

■ご夫婦の働き方は?

私も働いていますし妻もフルタイムで働いていて残業もあります。妻は1年の育休取得後復帰しました。送迎はできる方がしています。

■家族の協力はありますか?

家を建てた際に両親・祖母と同居を始めました。「嫁が居やすい・過ごし易い家にしてね」ということで、育児に関しては「してほしいことを頼む」「言われたことをやる」というルールがあります。

■保護者会の役員は女性ばかりで抵抗はありますか?

私は特にありませんが、お母さんたちは「どう思っているのかな?」と思います。

■保護者会について

運動会は苦労しました。保育園の行事に父親が参加する事は良いことだと思いますが、役員になる事は難しい、特に職場の理解を得ることは難しいと思います。「保育園の役員は母親」という考えの父親がほとんどだと思います。先生や他の保護者の方と知り合える事はとても良いことです。

編集後記

〈地域力×女性力=無限大の未来〉は身近な女性の活躍を地域ぐるみで応援するキャッチフレーズです。地域が活力を高めるためには、男女が共に暮らし、働き、子どもを産み育てる事を通じて理想を実現できる地域にしていくことが重要であります。これからの当会も地域の特色を活かし、活力ある地域づくりをめざし、さらに躍進していきたいと思うこの頃です。



区役員アンケートについて

私ども諏訪市男女共同参画市民協議会は市民と行政が協働して男女共同参画を推進していくことを目的に、公募により平成 12 年に発足し活動しております。活動の一環として、地域の議決機関への女性の参画を目指して、アンケートを実施し各区の女性の参画状況の把握をしてきました。また、各地区へ出向いて交流会を行ったり、自作の女性区長誕生までの紙芝居を持参し出前講座を行うなど貴重な意見を推進活動に活かしてきました。

当初 101 区中 70 区より回答 (回答率 69.3%)、内議決機関に女性がいる区は 20 区 28.6% 平成 27 年 90 区中 86 区回答 (回答率 95.6%)、内議決機関に女性がいる区は 48 区 55.8%

※回答率は平成 16 年から 9 割を超え、平成 18 年以降は議決機関への女性の参画は 50 ~ 60% で推移している。

アンケート結果より、各区において区政への女性の参画についての考慮はしていただいておりますが、まだまだしきたりや慣習にとらわれ進展しない様子が見えられます。裏方で女性の参加や女性の意見も聞いているという次元にとどまることなく、意思決定の場に女性自身の名で参画する事が大切と考えています。また、人口減少等に伴って、役員の選出については大変苦慮しているとの切実な声も寄せられていますので、その際には是非性別に関係なく女性も候補に挙げていただきたいと思います。今後議決機関への女性の登用について、「検討する予定はない」と答えた区が半数程ありました。社会的な環境や女性自身の意識、その背景にある家庭事情など課題は多様な現状ですが、本来の男女共同参画の理念に立ち戻り、もう一度役員会・協議会で検討していただければありがたいと思います。

徐々にではありますが意識の変化もみられてきています。単に「参加する」というのではなく、自分の意思で自分の言葉で意見を言える「参画する」という所までの意識の醸成が今後の課題であり、会として検討していかなければいけないことと考えています。



# 諏訪市男女共同参画市民協議会の活動報告

## 男女共同参画社会に向けての全国会議

■6月24日

地域力と女性力の協働が大きなテーマとなった全国会議は、実際の事例など地域活性化につながる活動を知る良い機会となりました。「女性の活躍が地元を元気にする」と題したパネルディスカッションでは、東京の仕事を再分配し地域でインターネットを使った新しい働き方としてクラウドソーシングサービスを提供する企業の紹介があり、また、女性の活躍する可能性とそれを支える環境整備等について熱い議論がされました。



## ともに生きる諏訪市民大会

■6月27日



講師：菊地幸夫さん「ワーク・ライフ・バランス」～仕事も家庭も一生懸命～  
弁護士として活躍される傍ら、テレビの「行列のできる法律相談所」にレギュラー出演している菊地さんは、週末には地元のバレーボールの監督として小学生を指導。各地のトリアスロン大会にも出場しています。仕事だけではなく、地域で活動することや家庭生活の充実が心のバランスを保っていると語り、仕事以外の時間の大切さを呼びかけました。また、テレビの収録の裏話なども紹介。精力的な日常を送る菊地さんの姿に、多くのパワーを貰いました。

## 男女で担う生活サポート講座 第一弾

■6月9日

「発達障害ってなあに？～みんなが生きやすくなるために」 講師：野見山ナオミさん

子どもが心身ともに健やかな成長をするためには、安心感・安全感が不可欠であり、親の優しい表情・愛撫・抱擁による“愛着”により発達していきます。発達障害は生まれもったものであり、周囲の理解と協力があればその人の“生きやすさ”へと繋がります。長所を見つけてあげたり、肯定してあげたり、その脳の特性に合わせて対応していくことが大切です。五感のうちどれかが過敏になる事があってもそれが長所になっていくこともあるそうです。マイナスの面に目を向けず、よい面を見つけていくことが大切なのだと思えます。



## 男女で担う生活サポート講座 第二弾

■7月9日



「DV・デートDVの現状を知り子どもに及ぼす影響について一緒に考えよう」

講師：野見山ナオミさん

DVは基本的な人権を暴力によって奪う重要な人権侵害であり、犯罪行為であることを再認識した講座でした。特に子どもに及ぼす影響は大であり、大人になって同様の暴力を振るうようになる「暴力世代連鎖(再生産)」や発達段階にある子どもの脳に与える萎縮ダメージは、注意力や視覚的な記憶力が低下する等の影響が考えられています。DVは社会全体で解決すべき問題であり、一人一人の意識改革の必要性を深く考えさせられました。

## 男女で担う生活サポート講座 第三弾

■9月3日

「今どきの子育て事情～対象年齢0歳から1歳～」

講師：諏訪赤十字病院助産師 山並 航さん

昨年に引き続き、山並さんから「子育て、今と昔」のお話をお聞きしました。ネパールでの支援活動から帰国されたばかりの山並さんは、その体験を交えながら助産師としてのやりがいなどを明るく語ってくれました。子育ての方針はパパ・ママが決め、祖父母はあまり口を出さずサポートしていきましょう。このより良い関係をハッピートライアングルと話されました。つい自分自身の経験を押しつけてしまいがちですが、心に留めておきたい言葉でした。



## 男女で担う生活サポート講座 第四弾

■10月22日



「子どもの感染症予防」 講師：諏訪赤十字病院 小児科 塩入崇弘 医師

塩入崇弘医師は具体的な例を挙げながらわかりやすく、子どもの感染症について話されました。乳幼児の感染症予防にはワクチンが一番のようです。自己紹介を兼ねながら医師になるまでの経緯をはなされ、特に亡くなられた落合双葉医師の話はとても印象に残りました。

## 男女共同参画職員研修

■7月24日

講師：中島恵理長野県副知事

中島恵理副知事の家庭からみた男女共同参画、ワークライフバランスについての講演をお聞きしました。富士見町で生活をしていくにあたり、夫はここで自然農法をしながら自宅建築、幼稚園は自然と向き合った保育をしている所を選び、幼稚園での行事、ボランティアなどには積極的に参加しています。副知事は国・県・大学で環境問題について、精力的に取り組んできました。お互いの仕事を尊重し家族の協働と信頼、地域との交流などごく自然体で生活しています。友人の何人かもこのような状況にあるので、決してむずかしいことではないのではとのことでした。



## 中島副知事との懇談会

■7月24日



懇談会の前に職員研修で、副知事自身が2人の子育てをしながら中央での活躍と長野県政への関わり、富士見に居を構えての地区住民とのコミュニケーションに戸惑ったとのことですが、それでも条件的にはずいぶん恵まれていると思えました。懇談会では各団体の意見・要望を熱心に聞き前向きな返答をしており、これからの県政の活性化に期待が持てました。各団体間の連携の必要性を切に感じました。

## 視察研修

■8月25日

しおじり女性会議を訪問してお話を伺いました。会員の高齢化・男性会員が少ない点は私たちと同じで、違う所は自分たちで会報等を行政の力を借りず作り会員の配布している事など担当役員の方たちの苦勞も伺えました。ただ会員のみの配布で市民に配られないのはもったいない気がしました。「社員の子育て応援宣言」をしている企業2社を訪問しました。高島産業(株)では、フレックスタイム制度を利用して、女性だけではなく男性も子育てしやすい就業関係を整えていると伺いました。興和自動車興業(株)では、働きやすい職場づくりのために「妊活」を勧めているとのことでした。



## 市長との懇談会

■9月16日

新市政スタートを受け協議会のあり方を見直す中で、市長の考え方・提案等を聞く機会として開きました。男女共同参画社会実現のためには女性労働を必要とし、それには家庭生活を支えてくれる人が要り、事業主の理解も大事であり、協議会の構成にもっと幅広い職種や世代、男性の参画を促し、色々な意見が欲しいと要望されました。協議会の存在の意義は変わらないが、いったん総括し新しい方向を探したら良いと思います。



## 親子運動教室

■10月4日 保育園保護者会共催事業



家族が共に過ごせる幸せ、小さな喜びを見つけながら、親と子どもと一緒に育てたいという思いのもと開催致しました。インストラクターの柏木先生の指導で、体操やダンスに親子・祖母を含め126の方が参加しました。一緒に体を動かし、子どもとのスキンシップを持ち、笑いと笑顔があふれる会となりました。子供と一緒に遊んだり、家族で触れ合うことの大切さを改めて実感することができました。

## 日本女性会議 2015 倉敷

■10月9・10日 倉敷市



倉敷で日本女性会議が開かれました。岡山県でただ一人の女性市長伊東香織氏の「思いやり男女が集う白壁のまち」のテーマでの挨拶に始まり、その後内閣府男女共同参画局長の武川恵子氏がなぜ女性の活躍が重要なのか、そして政府の取組と成果を説明されました。記念講演で NHK アナウンサー武内陶子・東京工業大学教授上田紀行夫妻の楽しいトークがあり一日が終わりました。二日目は10の分科会の後記念シンポジウム「希望の社会は“わたしたち”にある」との題で議論され幕を閉じました。



伊東香織倉敷市長と